

Victor Paul Brang Tun

フレームワークス (枠組み), 2019

このインスタレーションのタイトルは「フレームワーク (枠組み)」です。ビルマのアーティスト **Victor Paul Brang Tun** が、ラタンでできた椅子を解体し、分解されたパーツから新しいアートワークを作成しました。これは元々、2019年、**Brang Tun** のラサール芸術大学卒業時の作品展のために作られ、時が経つにつれ、改訂され、修正されました。今現在とこれまでへの変化の過程を反映しつつも、変わらない部分も多く残されています。

イギリスの作家 **Charles Caleb Colton** はかつてこう語っています。『時間とは、最も定義することが困難で逆説的なもの。私たちが過去を定義しようとしても、過去は消えさり、未来は来ず、現在は過去になります。』しかし、私たちが知っていることは、時は繰り返されるということです。時は死を免れない存在へ、破壊・腐敗・死をもたらす一方で、もう一度原点に戻り、新たな始まりや、成長・復活、再生をもたらします。

フレームワーク #1、#5、#8、#9 は、分解された 4 つを新しく改造した複合体で、その総量は全体よりも大きなものです。アーティストが素材として、ラタンを選んだ理由は、丈夫でありながら柔軟性があり、リサイクル可能でオーガニックな素材であったためです。そして、同じくオーガニック素材である、麻ひもと木も加えました。

この作品は、アーティスト自身のアイデンティティを形成するための経過を反映しています。そしてイギリスの植民地から自由主義、権威主義体制へと移行した今日のミャンマーを、現代アートの表現でほのめかしたものでもあります。